

JASIS

NEWS

No. 44

2009/2/25

日本インテリア学会会報

■平成20年を顧みて

会長 高橋鷹志（東京大学名誉教授）

日本インテリア学会設立20周年を迎えた昨年は、総会・理事会・大会あるいは総務委員会などで、記念行事・活動に関する議論が交わされました。その結果、建築設計資料集成コンパクト版としてインテリア編を出版することや、その他の行事の提案がまとまりました。

詳細は総務委員会の報告を御参照下さい。

次に当学会の研究活動・内容について振り返ってみたいと思います。論文報告集や大会発表梗概集においては、研究主題に概ね、計画・人間工学・歴史・その他（教育など）に分類されています。計画部門については住宅の室内研究が中心になることは言うまでもないのですが、他のビルディングタイプにも更に対象を広げる必要を感じます。最近、関心があるのは室内を出た外部の公共空間の質に関するものです。道路・広場・駅舎などはインテリアとは別の土木・電気・交通などの専門家によって計画・デザインされているのですが、環境全体への配慮・統合性の欠如が気になります。インテリアに近い対象では、鉄道駅のプラットフォームに置かれたベンチのデザインです。長いプラットフォームに小さな椅子が窮屈に並んでいることや、人身を守るガードレールや環境を支えている電柱などが、歩行の障害になっていることなどです。改めて公共空間をインテリアの研究対象として取り上げる必要を感じます。

最近、インテリア業界紙で各企業の代表が各社

の目標を寄稿しているのを読みましたが、その内容は大きく三つに分類できました。

「住み手にとっての居心地のよい環境」

「個性・独創性豊かな環境」、

「4R (Reuse, Reduse, Refuse, Recycle) や環境負荷低減を目標とした持続的環境」でした。

今後は最後の持続的環境への研究が拡大していくことが求められるのです。また、他の二つの目標については、インテリアの専門家のみだけでは解決できず、一般市民のインテリアへの関心・知識・感性を育てる必要があります。そのためには義務教育においても、インテリア教育を導入すべきであり、家庭科の教科書には住まいの室内環境（明るさ・温湿度・音など）に関する記述に重点が置かれているのが気掛りです。

何れにしても、この一年間で学会の将来の活動を示唆する種々の問題提起が蓄積されたこと、学会員の方々に感謝する次第です。



高橋鷹志会長大会挨拶

■第5回アジアインテリアデザイン学会 AIDIA 報告

[国際委員長・副会長]

加藤 力 (宝塚造形芸術大学教授)

昨年10月21日～23日までの3日間、中国、鄭州で第5回アジアインテリア学会が開催されました。国際委員長である加藤力がこの会議に出席いたしましたので、その概要について報告いたします。

アジアインテリア学会は隔年毎に中国、韓国、日本で開催されています。まず第1回は韓国のソウル、第2回は中国西安、そして第3回は平成16年には東京のビッグサイトで、開催されたことは皆様にはご存知と、思いません。

そして3年前(平成18年)の第4回は再び韓国、ソウルで開催され、そして今回の第5回の大会は中国が主催国となって開催されたものです。

また、アジアインテリア学会は大会と合わせて学生ワークショップが開催されております。昨年の夏には九州大学で、湯本教授の多大なご尽力によりワークショップが開催されたことは記憶に新しいところです。

ところで、今回の開催地の鄭州について若干ご説明したいと思います。鄭州は中国の中央部に位置する河南省の首都です。近くを黄河が流れ、中国古代国家である殷の成立地点でよく知られるところです。またそこは甲骨文字の出土で有名でもあります。

中国ではすでに沿岸部の主要な都市開発がほぼ完了し、現在は鄭州のような内陸部の都市開発にとりかかっております。鄭州も、東京に匹敵する大規模の都市開発に今、まさに挑戦しているところです。河南省 1省の人口がほぼ日本の全人口に相当しますから、中国という国家とその都市の大きさのほどが理解できます。

さて、会議は、鄭州の都市開発の中心である交際会議場で開催され、中国、日本、台湾、オーストラリア、イタリアなどから多くの招待者による講演のほか、分科会などが3日間かけて開催されました。同時に各国作品パネル、中国作品パネル展示などが行われ、1000人を超す参加者でにぎわいました。パーティーには省の要人も出席し、会の重要さを印象づけました。

日本からは首都大学の鈴木敏彦准教授が「建築的家具」に関しゲストスピーチを行い高い評価を受けました。また、大会に合わせてアジアインテリア学会の運営に関する新しい取り決めなども話し合わせ、大会旗が、韓国から主催国の中国に引き渡されました。

ところで、2年後の2010年にはいよいよ日本におい

て、第6回アジアインテリア学会を開催する順番に当たっており、早速、その準備に取りかからなければなりません。このための皆様のアジアインテリア学会に対するご協力を心からお願い、大会を盛りたてたいところがあります。

■ AIDIA 国際学会・発表について

首都大学東京システムデザイン学部

インダストリアルアートコース准教授 鈴木敏彦

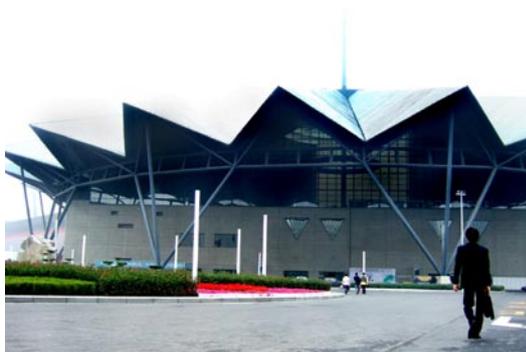
2008年10月21日-23日、中国・鄭州(ていしゅう)にて、アジアインテリア学会が開催されました。鄭州は北京と上海の間に位置する河南省の大都市です。本学会が開催された国際会議場を含む、鄭州全体の新しい都市計画を、故・黒川紀章氏が設計しています。かつて黒川事務所に勤めていた筆者にとっては、この予想外の出会いは懐かしくもあり、吹き抜けのホールの設計や、窓枠に使われた“ときわみどり”の配色には感慨深いものであります。

1,000人を超える参加者の内訳は、中国人8割、韓国人2割、日本人4人で、すべての発表には中国語の同時通訳がつかまりました。発表内容は、上海や北京の商環境設計のプレゼンテーションから、中国全土の店舗設計のポスター発表、そして美とは何かという哲学的な考察まで多岐に渡りました。筆者は「建築家具」という家具と建築の中間的な概念について会議場にて講演しました。中国の学生を中心に、国境を越えて、アジアのトレンドを理解しようという聴講者が熱心に耳を傾けていたことが印象的でした。2010年は、日本も開催国として、この国際会議を盛り上げることになります。

1) 鄭州は北京と上海の間に位置する河南省の大都市



2) 国際会議場を含む都市計画は故黒川紀章設計



3) 中にはいると、吹き抜けのホール頭上に大きな窓があります。



4) アジアインテリア学会の日本支部代表として、建築家具について発表する筆者。



5) 大会2日目には、千人を越す参加者全員で一緒に記念撮影を行いました。



講演内容は こちら (英文)

<http://kenchikukagu.com/thesis/pg115.html>

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/>

■平成20年度日本インテリア学会大会の報告 (続き)

大会長 湯本長伯 (九州大学大学院)

実行委員長 平井康之 (九州大学大学院)



JASIS インテリア学会大会(九州) 2008 九州大学

昨年9月末の年次大会について、前号に引き続き発表タイトルや座長講評および報告拾遺などを新たに記録に残し、また簡単な日程と場所について再録致します。

1) 日時・場所:

9月26日(金) 大会準備会・理事会・懇親会

9月27日(土) 第1日 学術発表会

九州大学大橋キャンパス (福岡市南区塩原 4-9-1)

9月28日(日) 第2日 見学会

長崎の近現代建築と街創り／ながさき美術館、歴史文化博物館、出島地区整備、近代領事館建築 (活水学園等)、海星学園校舎、大浦天主堂、長崎丸山料亭等々

□実行委員長挨拶

平井康之 (九州大学大学院准教授)

インテリア学会は、まだ夏のように暑い、秋晴れに恵まれた9月27日、28日に無事開催することができました。これはひとえに運営に携わっていただいたすべての方のおかげです。ここに感謝いたします。

さて今回の第20回大会は九州大学大橋キャンパスを舞台に94名の参加、47本の論文発表、16件のポスター発表がありました。学生の作品パネルも15点と多くの参加があり、優秀賞も甲乙つけがたく2点選ばれました。

その後、パネル発表の片付けも早々に17時頃長崎に向けてバスでエクスカーション出発。丸山料亭花月にて卓袱料理とインテリアを堪能しました。

翌29日は、長崎美術館、長崎海星学園や歴史文化博物館など九州地区のインテリアデザインの過去から現在に至る流れを体験できる内容でした。河田先生、グラバー邸あたりの説明おつかれさまでした。

参加された方全員にお礼申し上げます。至らないところ、多々あったと思います。ここにお詫び申し上げます。次回は富山です。次回へバトンタッチしさらなる盛会を祈念いたします。

□懇親会のご報告

大会副実行委員長 上和田茂 (九州産業大学)

大会前日の、2008年9月26日の18時30分、福岡市内では数少なくなった酒蔵(石蔵酒造)を改修した宴会場を会場として懇親会の幕は切って落とされた。これまでにインテリア学会の大会に参加した経験のない私が進行役を承り、いささか不安なスタートではあった。おまじりの高橋会長のご挨拶、その後の車九州支部長および西出事務局長のご挨拶の後の進行については特にシナリオを用意してはなかった。西出事務局長からの「出席者の大半を占める男性参加者の気を引くには若い女性会員のスピーチが一番」とのご助言に、それもそうだと納得し、一人ずつご登壇いただくことになった。途中からはいつしか「女性」であれば年齢不問となり、それも尽きた頃、上野先生の「来年度の大会では、大会参加者は必ず発表すべし」との檄に悪乗りし、今夜の懇親会はそのリハーサルにとの謳い文句で、その後は40人近い参加者全員にマイクを回し、一口スピーチをお願いした。

そのお陰で、各支部における活動の様子も知ることができ、またインテリアデザイナーの先生からは、酒蔵改修による宴会室の改修方法の問題点についての指摘など、インテリア学会ならではのコメントもいただき、有意義な時間を共有することができた。そして、最後の方のスピーチがまさに宴会終了予定時間を告げる合図となり、次年度の大会開催地である金沢学院大学の山口先生および棒田先生のご挨拶をいただいた後、見事、懇親会は閉幕となった。

最後になりますが、拙い司会におつきあいいただいた参加者の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

□プログラム編成のご報告

大会副実行委員長 上和田茂 (九州産業大学)

今年度の大会発表への応募数は、論文発表部門33題、パネル発表部門14題の合計47題であった。プログラム編成の作業は、2008年9月11日15:00より、九州大学産学連携センター・デザイン総合部門において行われた。編成委員は、大会長の湯本長拍九州大学教授、大会実行委員長の平井康之九州大学准教授、副実行委員長の上和田茂九州産業大学教授、森永智年九州職業能力開発大学校准教授の4名である。

委員全員による全応募論文の閲覧の後、例年のプログラムを参照しつつ、今年度の応募論文の傾向を踏まえ、論文発表部門8セッション、パネル発表部門4セッション

に分類した。すなわち、計画①評価・心理(4題)、計画②インテリアエレメント(4題)、計画③コミュニケーション・空間構成(4題)、計画④ライフスタイル・プログラムデザイン(5題)、人間工学①作業姿勢・生理(4題)、同②その他(3題)、歴史(5題)、その他(4題)、パネル発表部門①インテリアエレメント(4題)、同②住宅(3題)、同③計画提案(3題)、同③椅子(4題)である。

□長崎丸山料亭・花月の見学・交流会

大会長 湯本長伯 (九州大学院)

江戸時代、江戸の吉原・京都の島原と並び称された長崎の丸山に残る史跡料亭の一つ、花月の空間と卓袱料理を味わい、見学しました。長崎は原爆で壊滅的な損害を蒙りましたが、岡場所である丸山は原爆には山の陰になり、幾つかの建物が残りました。花月では、爆風でたわんだ間柱を見ることが出来ます。

卓袱料理を戴く台は径1mほどの丸い卓ですが、卓袱台という名称はここから来たと言われます。今回は6人が丸く卓を囲み、かつて日本の家庭団欒を育てた、絶妙な対人距離と互いの角度の妙、そして美しく美味しい卓袱料理を味わいました。卓袱料理の空間行動的考察は、また年報でも採り上げたいと思いますが、当時既にイス座の宴席が当たり前のようにあったことや、葡萄酒などの西洋の飲食物、そして坂本龍馬が柱につけたたわむれの刀きずなど、江戸の長崎に想いを馳せて、見学会の前夜祭と致しました。<http://www.ryoutei-kagetsu.co.jp/>

■第20回大会(九州)発表プログラム一覧

会報として、大会研究発表をまとめて掲載致します。

A 論文発表部門

ページ(1)~(34)

【計画① 評価・心理】

座長 小宮容一

001 プティック・インテリアデザインの視覚評価と意識との関係 三木幹子(広島女学院大学)・小野育雄

002 洋室における木質感の評価について—学生と住宅購入世代を対象にした評価と分析および10年前の学生による評価との比較— 森永智年(九州職業能力開発大学校)

003 暖炉の長所・短所及び形態の印象~薪ストーブを対象として~ 白石光昭(千葉工業大学)

004 平面計画の質的評価に関する研究(6)一階段・浴室・トイレへの経路のLDKスペースとの関わり方の調査— 横田 哲(SI(エスアイ)住宅研究室)・青野 順

【計画② インテリアエレメント】

座長 白石光昭

005 扉の開け方とドアノブ・ドアハンドルの形状との関連について(その2) 西山紀子(京都橋大学)

006 学校教育施設内におけるサイン計画～地域開放に向けての現状と展望～

宇井雪乃（滋賀県立大学大学院）・宮本雅子

007 インテリアにおけるパターンコーディネートの実証考察Ⅰ
小宮容一（芦屋大学）・井上 徹

008 住まい方とエネルギー消費に関する調査研究 電気メータを用いた省エネ生活の効果検証

松本吉彦（旭化成ホームズ株式会社住生活総合研究所）・
下川美代子・高橋正樹・長山洋子

【計画③ コミュニケーションの空間形成】

座長 上和田茂

009 子どものインテリア行為の発達と母親の関わりに関する研究 住まいにおける子どものインテリア行為と母親の関わりに関する研究 その1

近藤雅之（積水ハウス）・片山勢津子・中村孝之

010 子どものインテリア行為と母親の育児観に関する関係 住まいにおける子どものインテリア

行為と母親の関わりに関する研究 その2

片山勢津子（京都大学女子）・近藤雅之・中村孝之

011 表現材料の特徴が子どもの空間表象に与える影響(2)－秘密きちワークショップNo.3を通して－

北浦かほる（帝塚山大学）

012 親子のコミュニケーション領域の平面方向への拡がりに関する実験研究－キッチンでのながら会話と会話の質による検討－

仲谷剛史（積水化学工業㈱・東京大学大学院）・
関戸洋子・西出和彦

【計画④ ライフスタイル・プログラムデザイン】

座長 ペリー史子

013 産学連携における大学内店舗のインテリア計画の基礎的研究 その1

肉丸春香（広島工業大学）・浅沼則行・平田圭子

014 産学連携における大学内店舗のインテリア計画の基礎的研究 その2

浅沼則行（広島工業大学大学院）・肉丸春香・平田圭子

015 韓国のブランドアパートにおける坪別居住者タイプ－居住者タイプに適切な浴室開発に向けて－

申 京珠（漢陽大校）・文書賢

016 「セカンドライフの住まい」に関するアンケート調査報告と分析
鈴木儀雄（大阪芸術大学）・小宮容一

017 現代の教会建築における中心と席配置関係の空間考察
村上晶子（村上晶子アトリエ代表/明星大学）

(35) ～ (65) ページ

【人間工学① 作業姿勢・生理】

座長 直井英雄

018 キッチン作業における照明環境と身体負担に関する研究(1)
小泉恵美（クリナップ株式会社）・上野義雪

019 キッチンのワークトップにおける平面形状と身体負担に関する研究
宮本鈴実（㈱ノーリツ）・上野義雪

020 足関節角度の違いが作業姿勢に与える影響について－キッチン作業時の踵高さからの検討－

鈴木理恵（カツデンアーキテック株式会社）・西岡基夫

021 官庁型オフィスにおける執務者の座席配置からみた着座特性に関する検討 窓際着座者からみたVDT作業時の表示画面の見やすさについて

若井正一（日本大学）・松下信禎・岡本 賢

【人間工学② その他】

座長：若井正一

022 インテリア空間における動線の有効利用に関する研究(2)－歩行を形成する人体側の因子について－

穴沢 舞（千葉工業大学）・上野義雪

023 複数個体間に形成される個体領域に準ずる心理的領域に関する実験

大竹宏之・久保田一弘・直井英雄（東京理科大学大学院）

024 事務用いすの選択を考慮したマニュアル作成の試み

上野義雪（千葉工業大学）・上野弘義

【歴史】

座長：河田克博

025 東アジア三カ国の共通食道具の伝播・受容・変容について－日・韓・中の共通食道具としての箸を中心に－

ゾン ミ ソン（武蔵野美術大学）

026 禅宗における空間認識に関する考察－建長寺・円覚寺の塔頭の成り立ちから－

堀邊阿伊子（駒沢女子大学）

027 モダンデザインの背景を探る アヴァンギャルド住宅出現にみるクライアント像 －その1－

塚口眞佐子（大阪樟蔭女子大学）

028 J.ダウカー「ENCI-CEMI」展示カウンター」とA.v.アイク「ローフラー教授の塔の部屋」の比較考察 20世紀オランダ近代建築運動及び作品研究53

小川泰輝（九州大学産学連携センター）・

柳 龍馬（九州大学芸術工学府）・

石田壽一（東北大学大学院建築学科）・

湯本長伯（九州大学産学連携センター）

020 C・R・マッキントッシュの家具デザインの特徴（その5） C・R・マッキントッシュのインテリアデザインに関する研究（その9）

高橋敏郎（愛知淑徳大学）

【その他】

座長：森永智年

030 ウッドセラミック切りくず粉の内装材への利活用

小川和彦（職業能力開発総合大学校）・岡部敏弘・小川 誠

031 ブラックライト照射による樹脂発光効果に関する研究

滝本成人（椋山女学園大学）

032 テーブルスケープデザインに関する研究－2 食育とインテリアデザイン－

中野久美子（京都女子大学・旬フードアート）・

加藤 力（宝塚造形芸術大学大学院）

033 インテリア空間に表出される精神の病みに関する調査研究 その1－研究の背景と枠組－

加藤 力（宝塚造形芸術大学大学院）・

松田奈緒子（京都工芸繊維大学大学院）

B パネル発表部門

ページ (67) ～ (94)

① 【インテリアエレメント】

座長 小川泰輝

034 『色』の調和を考えた住宅内装部材の開発－美しくコー

- ディネートしやすい住宅内装部材の提案 (その1)
熊谷正信 (愛知産業大学)・森美香子・三沢亮一・
橋田洋子・大橋章之・小倉ひろみ・塚田司朗・茂木弥生子
035 『形』の調和を考えた住宅内装部材の開発ー美しくコー
ディネートしやすい住宅内装部材の提案 (その2)
森美香子 (デコ・ワークス)・熊谷正信・三沢亮一・
橋田洋子・大橋章之・小倉ひろみ・塚田司朗・茂木弥生子
036 ガラスのみで構成した展示棚と照明
湯本長伯 (九州大学)・藤井美沙
037 外食シーンにおけるテーブルの提案
佐藤陽介 (千葉工業大学大学院)

- ② 【住 宅】 座長 栗山正也
038 FENCE HOUSE II インテリアとしてのOrganic Unity
今井裕夫 (京都橘大学)
039 自閉症スペクトラムにある幼児のグループワーク実践
のための環境構成に関する研究ー部屋の構造化を中心にー
木村直子 (鳴門教育大学大学院)
040 高齢者対応インフィルの研究
村口峯子 (駒沢女子大学人)・中村孝之 (積水ハウス)

- ③ 【計画・提案】 座長 北浦かほる
041 狭いスペースを広く見せ、気軽に立ち入れる飲食店の
提案 佐藤博紀 (千葉工業大学大学院)・上村 翼
042 繁久寺地下横断歩道のリニューアルデザイン計画につ
いて 長山信一 (富山大学)
043 バイオマスプラスチックを用いた曲面ブロックの提案
松崎 元 (千葉工業大学)・大工園英太・
渡辺禎久・矢澤智仁

- ④ 【椅子】 座長 平井康之
044 オフィスチェアにおける写真と実体物の印象差について
大工園英太 (千葉工業大学大学院)・
松崎 元・長尾 徹・大塚裕史
045 マグネシウム合金を用いた自走式車いすの提案
矢澤智仁 (千葉工業大学大学院)・大工園英太・松崎 元
046 タケノコイヌー竹集成材を用いた椅子の制作ー
奥岡志穂 (株式会社毎日コミュニケーションズ)・高橋敏郎
047 一竹を素材として使った持続可能な社会を目指すイス
のデザインの研究ー 榎本文夫 (駒沢女子大学)

■第20回大会研究発表講評 (まとめ)

【座長一覧】

A 論文発表部門

- ・計画(1) 評価・心理 【座長：小宮容一】
- ・計画(2) インテリアエレメント 【座長：白石光昭】
- ・計画(3) コミュニケーションの空間形成 【座長：上和田茂】

- ・計画(4) ライフスタイル・プログラムデザイン 【座長：ペリー史子】
- ・人間工学(1) 作業姿勢・生理 【座長：直井英雄】
- ・人間工学(2) その他 【座長：若井正一】
- ・歴史 【座長：河田克博】
- ・その他 【座長：森永智年】

B パネル発表部門

- ・インテリアエレメント 【座長：小川泰輝】
- ・住宅 【座長：栗山正也】
- ・計画・提案 【座長：北浦かほる】
- ・椅子 【座長：平井康之】

ゴチックは今回掲載分です。

■第20回大会研究発表講評

A 論文発表部門

□計画(1) 評価・心理 【座長：小宮容一】

001 (三木ほか) ブティック・インテリアデザインの視覚評価と意識との関係：若い女性(消費者)がブティックの店舗デザインに対してどのような印象を抱いているかの調査である。調査因子を「行動力と人間関係の意識」「ファッション意識」「ショッピング意識」とし、相関関係を見出そうとしたものである。結果、リーダーシップがあり自己主張の強い被験者が高級感のあるブティックを、向上心のある被験者は進歩的なイメージのブティックを、自己意識の強い被験者はセンスの良いブティックを志向する傾向を示した。順当な結果と思われる。これらは「行動力と人間関係の意識」の因子とショップとの関係で有り、研究としては、他の2つの因子とショップの関係についても志向方向を示すことが望まれる。

002 (森永ほか) 洋室における木質感の評価：室内空間の木質感の受け止め方を現学生と住宅購入世代、10年前の学生の比較したものである。木質感の受け止め方はその使用量に比例している。木質感の嗜好性については世代間に違いがある。例えば現学生は、腰板・小梁の組合せはマイナスに働く。一方、整った空間(床がフローリングのみ。小梁・腰板・フォローリング)はどの世代にも受け入れられ、評価を下げなかったとした。

私は、資料図2における現学生の嗜好のバラツキとか、腰板壁への嗜好の原因がどこにあるのかに興味を持たれた。インテリアスタイルは時代共に変化するので、その変化の要因に関する研究を期待したい。

003 (白石) 暖炉の長所、短所及び形態の印象：薪ストーブを対象としたもので、結果、長所は心理的効果一

落ち着く一であり、短所は設置場所、火をおこす手間であった。形態と印象の関係の調査を踏まえ、古い形態の暖炉が好まれ、直線的・現代的暖炉が嫌われ傾向があるとした。形態と印象評価の結果が他のインテリアプロダクトにも応用できるかについて

私的に興味を持たれ、暖炉の研究から一歩先を期待したい。

004 (横田ほか) 平面計画の質的評価に関する研究(6): 今回は階段・浴室・トイレへの経路のLDKスペースとの関わり方の調査である。経路状況の傾向に①廊下の有無が関与大。②LDKからトイレへの経路比率は最低。③LDK経路が集中すると設置階の床面積が小さくなる。④回遊動線は、LDK経路がするほど小さい。とした。横田氏の回遊性の連続的研究においても、今回のLDKと階段・浴室・トイレの経路研究においても、代表的プランについて、その動線の合理性・有用性・快適性などを評価する研究に進まれることを期待したい。

□計画(3) コミュニケーションの空間形成

【座長: 上和田茂】

009 (近藤ほか) は、子どもの自立過程における「インテリア行為」する力の形成について、学齢変化および母親の関与との関係において考察されたものである。分析結果としての、学齢が上がるのに伴いインテリア行為の内容が変化すること、片付け行為とインテリア行為する力とは相関があること、母親の関わり方により子どものインテリア行為する力の形成に差が生じるなどの指摘は概ね納得できるものである。会場からは、インテリア行為を含む子どもの自立過程の全体像との関係において分析を行うべきとの意見もあったように、今後における研究の深化が期待される。

010 (片山ほか) は、009に続き、母親の育児観と子どものインテリア行為の関わりについて考察されたものである。009での分析結果である「インテリア行為への母親の関わりについての類型化」の結果を基盤に、「母親の育児観」および「母と子との距離」の2軸を重ね、子どものインテリア行為について5つの類型を導出している。抽象性が高いため捉えることが難しい「育児観」および「母と子との距離」についていくつかの指標を駆使し、母親と子どものインテリア行為による関係タイプの構築を試みたことについては高い評価が与えられるべきであろう。反面、各分析指標間および各類型間の関係付けにおいて恣意的あるいは検討不足の点もみられ、今後の追究により類型の精緻化がなされ、より説得力のある研究成果が提示されることが期待される。

011 (北浦) は、秘密基地ワークショップを通して、表現手段としての材料および表現方法と子どもの空間表象との関係について考察されたものである。描画におい

ては画一的な表現になる傾向が強いこと、一方、立体造形においては自分の考えを表す作品が増加するなど、興味深い研究成果が得られている。ただし、論述において、ワークショップの状況説明に終始している感があり、著者のねらいが不鮮明にしか表現されていない。論文題目および研究目的にあるように、材料や表現方法について体系的かつ客観的な記述がなされれば、より一層読者の理解が得られたものと推察される。

012 (仲谷ほか) は、親子のコミュニケーションのあり方を追究することを目的とした研究の一環として、母親の台所作業中における子どもとの「ながら会話」および「顔合わせ会話」の状況について、アイランドキッチンを模した作業台を使用して行った母子による実物大実験結果の報告である。親子の向きが側面の場合の方が正面の場合よりも親が子の存在を認識しやすいこと、作業の有無や体の向きに関係なく、会話の質ごとに適正な親子の距離が異なるなどとの分析結果は、今後における台所の内部計画に対して有用な指針となるものと考えられる。なお、会場からは、壁付きキッチンの場合との比較などについて質問があったが、今後様々なセッティングによる実験が重ねられ、より精緻な指針が構築されることが期待される。

B パネル発表部門

□インテリアエレメント

【座長: 小川泰輝】

034 (熊谷ほか) は、住宅インテリアにおける質的向上のための、調和を考えた内装部材の開発プロジェクトとして、色の調和を目指した内装部材の開発を行ったものである。現状の住宅インテリアでは、内装部材や設備機器において様々なメーカーが独自に製品毎の色の設定を優先することにより、色の調和をとることが困難になっているという分析から、特定の色彩をもつ住宅内装部材の開発が複数の参加企業と共同で行われた。質疑では開発部材の共用の進め方や色の種類が議論の対象となった。参加企業や色の種類を増やすことが解決策として提案された。開発部材とそれ以外の部材の間どのような関係が構築されるかによって、「統一」とは差別化された「調和」のとれた空間の展開が期待される。

035 (森ほか) は、034の継続研究であり、形の調和を目指した住宅内装部材の開発を行ったものである。建築・住宅業界の関係者を対象としたアンケートから、インテリア計画時に既成の内装部材を選択する際、部材形状に関する不満が最も多く、特に設備機器関係のスイッチ・プレートにおいてメーカー間の意匠の相互関係が優れない点が計画の障害になることが判明した。またスイッチ・プレートにおける統一的意匠への需要が大きいことが確認された。一方で、複数メーカーが統一的商品開発を行うことの困難さが浮かび上がった。それに対

し、ここではガス関連、電気関連、ホーム・オートメーションのための独自のプロトタイプ・デザインを、既存のスイッチ・プレートを覆う化粧プレートとして作成した。この開発部材の実用化を複数メーカーを横断して行うことが今後の課題としている。

036 (湯本ほか) は、発表者らが所属する共同研究センターの玄関部分において、共同研究結果を展示広報し、今後の研究事業の促進を図るための、様々な成果物を置いて展示する棚と照明の制作を示した。展示内容が流動的であることなどから、展示棚をガラスのみで製作し、透明性及び展示物の浮遊感を得ることで独自性を与え、また展示物自体が良く見える状況を作り出すことが目指された。さらに照明システムを組み合わせることで、その効果を強める計画がなされた。発表会場の直近に現物が設置されていたため、実際に発表内容を体験することができた。同時に発表形式のひとつの可能性を示しているともいえる。

037 (佐藤) は、現代の多様な外食シーンにおいて、時間の流れや利用客にあわせて柔軟に変化していく外食空間を実現することを目的とした、天板に特徴を持つテーブルの提案である。天板には開口部や、平面的、断面的な凹凸があり、その特異な形状が外食空間における時間変化に伴う営業形態や利用形態に対応して、トレイなどの他部材やテーブル相互の連結、集合、離散を可能にするとされた。外食シーンが必要とするプログラムの多機能性と、物体形状が促すポテンシャルとしての多機能性の両面からのアプローチと理解される。質疑では提案された形状による行為の限定性の強さに疑問の声があった。今後の展開が期待される。

□計画・提案 【座長：北浦かほる】

041 (佐藤他1) は狭いスペースを広く見せ気軽に立ち入れる飲食店ということでファーストフード店などの簡易飲食店のデザインについてのアイデアを提案している。空間のエレメントである壁と、家具エレメントとしての食卓面を共通項で連続させてデザインの面白さを追求しており、学生らしさの見られるアイデアである。デザイン面でも計画面でももう一段階煮詰めてあれば、魅力が倍増したのではないかと考えられる。欲求不満になる点は、例えばどこにも寸法が示されていない。テーブルまわりの最も重要な通路幅などがわからない。また、同じ考え方を使っても各店舗の個性や特徴をつける事が出来るなどの事例を示してあれば、提案の面白さをより理解してもらえたのではないかと残念である。

042 (長山) は富山県で昭和46年建設の、老朽化した繁久寺地下横断歩道のリニューアルデザイン監修についての発表である。本改修は綿密な現状調査を実施した後、ハード面の改修を最低限に抑え、それをソフト面の

工夫で払拭するとともに地域住民のコミュニケーション機能を付加することを目指して計画された。それが地下道ギャラリーである。雪国特有の問題を1つずつ解決しながらの堅実な実践活動には好感がもてる。

043 (松崎他3) は間伐材などの植物性物質に合成樹脂を混ぜてつくった、エコ素材としてのバイオマスプラスチックの用途として煉瓦状の曲面ブロックを開発提案し、その用途を模索している。主旨はレゴブロックの組み替えの自由さと環境配慮型素材の2つの特徴を生かすことにあり、従来の製品との違いは曲面ブロックであるということである。色彩や形状からはインテリアよりもエクステリア用としての適性がみられるが、耐水性能に不安が残るとされている点が心配である。白から黒までの無彩色が自由に得られ、曲面ブロック以外を生産することで、さらにインテリア用にも用途を拡大して考えてはどうか。ブロックの形状から発想せずに、素材から用途を絞ってそれに適したユニバーサルな使い方ができる単位、ということで形状を再検討してみてもどうか。この素材を生かした製品開発が一刻も早く達成されることを祈りたい。

□椅子 【座長：平井康之】

044 (大工園ほか) の「オフィスチェアにおける写真と実態物の印象差について」は、SOHOでの使用で個人ユーザーの購入が多いと考えられるオフィスチェアを対象とし、カタログ等の画像イメージと実際に購入した製品の実物のイメージの差異に着目した研究の報告である。開発者のデザインの意図と、ユーザーの抱くスタイリングイメージの差を埋めるという意図はユニークな着眼点である。ユーザー視点をデザインプロセスに取り込むことは、今後のデザインの方向性に非常に重要である。今回は被験者数が3名と限られており、限定的な結果であるので、今後の更なる研究の発展を期待したい。

045 (矢澤ほか) の「マグネシウム合金を用いた自走式車いすの提案」は、車いすの軽量化の方策として、アルミニウム合金に代わる材料であるマグネシウム合金を用いた車いすの設計を行った事例の報告である。総合的に、軽量化だけではなく、マグネシウム合金の持つ利点を考慮する点が提示された。固定フレームによる部品軽減と車載の容易さという、相反する条件にチャレンジした姿勢は評価したい。発表の際に実際に曲げられたフレームのサンプルが提示された。25ミリx25ミリはフレームとして太いのではないかと指摘があった。今回の発表内容はCGであり、まだ原寸が起されていない点が惜しまれる。次回は原寸を用いた検証結果を期待したい。

046 (奥園ほか) の「タケノコイス」は、アーチ形状の有効性と形状の在り方について竹という素材の特性を活

かし、地球と人間、人間と社会の在り方を、椅子の製作を通じて示した報告である。生活に長年親しみのある竹の使用で環境問題とわれわれの愛着を両立した点は評価できる。孟宗竹の集成材を用いており強度は十分確保されているが、繊維方向に平行、直交の問題、加工性、コストを含めた今後の実施デザインへの展開を期待したい。

047 (榎本) の「竹を素材として使った持続可能な社会を目指すイスのデザインの研究」は、竹の集成材の使用という点では前発表と同じであるが、本研究では、ロングライフのための飽きのこないデザイン、良質の座り心地、木材使用料の削減に重点が置かれている。特に竹の特徴を生かした柔構造フレームと脚曲げ部分をコマ入れ無しのラケット構造にしたことによる視覚的、物理的な軽量化およびデザイン性が評価される。今回は竹を用いたイスのデザイン提案が2題あったわけだが、このように環境問題にインテリアデザインから取り組むテーマは奨励されるべきである

■日本インテリア学会 第15回卒業作品 展出品校一覧〈担当教員／助手〉

大学

- ・愛知産業大学デザイン学科建築インテリアコース (小川清一・松谷圭一)
 - ・宇都宮大学工学部建築学科建築学コース (金 俊豪)
 - ・大阪市立大学生活科学部居住環境学科 (小池志保子)
 - ・大阪産業大学工学部環境デザイン学科 (ペリー史子)
 - ・京都女子大学生生活造形学科 (片山勢津子)
 - ・女子美術大学芸術学部デザイン学科環境デザインコース (横山勝樹)
 - ・椋山女学園大学生生活環境デザイン学科 (滝本成人)
 - ・拓殖大学工学部工業デザイン学科 (白石照美)
 - ・東京電機大学一部工学部建築学科 (小林千穂子)
 - ・東京理科大学工学部建築学科 (大岩昭之・深見かほり)
 - ・千葉工業大学工学部デザイン科学科 (上野義雪)
 - ・名古屋工業大学工学部社会開発工学科建築学コース (北川啓介)
 - ・名古屋芸術大学デザイン学部 (平田哲生)
 - ・名古屋造形大学デザイン学科建築空間デザインコース (八代美智子)
 - ・日本大学工学部建築学科 (市岡綾子)
 - ・広島工業大学環境学部環境デザイン学科 (村上 徹)
 - ・広島大学工学部第4類建築コース (岡河 貢)
 - ・文化女子大学造形学部住環境学科 (長山洋子・梅山真紀子)
 - ・武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科インテリアコース (三澤直也)
 - ・琉球大学工学部環境建築工学科 (入江 徹)
- 短期大学
- ・共立女子短期大学生活科学科 (岡田 悟)
 - ・女子美術大学短期大学部デザインコース空間系 (後藤浩介)
 - ・東横学園女子短期大学ライフデザイン科 (河村容治)
 - ・共栄学園短期大学住居学科インテリアデザインコース (新井竜治)
- 専門学校等
- ・山脇美術専門学院インテリアデザイン科 (市村倭子)
 - ICSカレッジオブアーツ
 - インテリアアーキテクト&デザイン科 (木村昌弘)
 - 中央工学校建築室内設計科 (岡部公一)
- 高等学校
- ・鹿児島県立隼人工業高等学校インテリア科 (長谷川直輔)
 - ・青森県立弘前工業高校 (板垣常雄)
 - ・熊本県立八代工業高等学校 (森 敏章)
 - ・千葉県立市川工業高校インテリア科 (金子裕行)
 - ・岐阜県立高山工業高校インテリア科 (室谷伸治)
 - ・青森県立青森工業高校インテリア科 (滝淵安広)
 - ・長野県木曾山林基礎青峰高校インテリア科 (高木豊朗)
 - ・大分県立鶴崎工業高校産業デザイン科 (池永仁志)
 - ・宮城県工業高校インテリア科 (大出光一)
 - ・鹿児島県立川内商工高等学校インテリア科 (滝下昌人)

■大会シンポジウム『インテリア学大系』

平成2008年9月27日

日本インテリア学会 第20回大会 (九州大学) 委員会

実行委員長 平井康之 副委員長 上和田茂

大会長 湯本長伯 委員 森永智年

九州支部長 車 政弘

大会2008シンポジウム 次第

会場：5号館1階511講義室 午後1時開会

1:00 開会・『インテリア学大系創刊』主旨説明

高橋会長

- 1 : 10 関連事業A I D I A九州ワークショップ報告
 上和田茂 (九州産業大学工学部長/WS会場等担当)
 平井康之 (九州大学芸術工学部/WS学生指導等担当)
 加藤 力 (宝塚造形芸術大学/国際シンポジウム講演、国際委員長)
 湯本長伯 (九州大学/同 講演、広報委員長)

- 1 : 30 シンポジウム 趣旨・進行説明
 (湯本・大系特別委員会委員長)

- 1 : 40 研究部会別発表 (7部会) 各7~8分
 研究部会は、どのような対応・貢献が可能か?
 何が書けるか?

歴史	計画・構法
人間工学	(デザイン)
教育	CAD
住宅	

- 2 : 40 討論 ~ 3 : 00 終了

インテリア学大系についてのまとめ

0) 大系とは?

- 全体像の要約・列挙 >対外的対内的説明とする
 >>インテリア分野の確立に繋がる
 インテリアという【対象】学
 概念分割>部分の構成と説明
 >WGは、こうした方式を採用しなかった

1) インテリアの本質とは何か?

- 内からの視点 人間行動・生活からの視点
 眼に見えるものの仕組み (E+R)
 +眼に見えないものの仕組み
 ハード+ソフトの組合せで考える

2) インテリアの原理

- ①ヒト・モノ・クワン 距離が近く相互に影響する
 >自由ではない
 形状や位置……等が人間行動を誘発・誘導する
 アフォーダンス
 限定・誘導 行動のプログラム
 プログラムの積み重ね+整理
 >作法・行動規範

行動規範も一つの環境条件となる

②主体性・個人の好み(行動性向)も重視される

3) 原理の共有から計画・設計へ

- 『共通性と個性』 『具体的なエレメント』
 快適で幸せな環境を形成することのプラットフォーム
 共通原理と個別的好みの織りなすもの

【第一段階】

【第二段階】

- 4) インテリアの分野・教育・社会との関わり
 分野 >>研究部会
 教育 >>学校関係(インテリア)科

以上、これまでのワーキングを第一段階としてまとめ、今後は全国に存在するいわゆる『インテリア科』など、具体的な教育の場とも連携し、また社会に出てどのような仕事をしているのか、社会にどのように役立っているのか必要なのか、等々、社会的な位置づけを固め、且つ高めて行くことが課題と表明された。

この事業は「インテリアとは何か」を具体的に明らかにしようというモチベーションから発し、かなり長期間のワーキングを経て現在に至っている。今後は仕上げの作業になるが、「建築建設時代の終焉」「インテリアと身近な生活空間の時代到来」という時代変化をきちんと受け止めながら、しっかりと進めて行きたい。

湯本長伯 (九州大学大学院・大系特別委員会委員長)

■運営委員会だより

□論文委員会

委員長 直井英雄 (東京理科大学)

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/ronb.html>

□広報委員会

委員長 湯本長伯 (九州大学)

- 1) 事務ホームページの更新 (35回) を行った。

会員や役員の方々の更なる更新要求・情報提供を、お願いしたい。またホームページのURLは、
<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/> です。

- 2) 広報委員会では、インテリア学会メールニュースの試験的発行を続けています (現在27号)。

現在は、メールアドレス登録者が176名です。

皆様の、一層のアドレス登録を、お願い致します。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/mailnews.html>

- 3) また会報発行は、現状では年間3号が定着しつつあります。この速報性の無さは、メールニュースで補うしかなないと考えてはいますが、ご意見をお願い致します。

現在は年間3号、総会后(大会前)と大会後、及び年報(年度最終号)を発行していますが、本年度は大会時期の関係で発行をずらしました。

もう少し違った切り口の発行時期や編集内容提案があれば、編集委員会(広報委員会)も動きやすいので、ゼ

ひご意見・ご叱責をお願いしたいと思います。

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/43.pdf>

4) なお2010年には、A I D I A国際大会が日本での開催となります。韓国中国のような業界も含んだ組織構成ではないため、学会だけでの開催には様々な困難がありますが、学会内、あるいは会員相互で情報を共有し、何とか国際的な事業を担って行ければと思いますので、広報委員会を代表してお願い申し上げます。

(interior@design.kyushu-u.ac.jp)

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/koho.html>

□国際委員会

委員長 加藤 力 (宝塚造形芸術大学)

(A I D I A関係の項に、中国河南省鄭州での2008年度大会の報告と、関連事項を掲載しています)

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/koks.html>

■総務委員会活動報告

総務委員長 上野義雪 (千葉工業大学)

総務委員会では随時委員会を開催し(会長、事務局、総務委員が参加)、下記の案件等の活動を行った。

- 1) 学会運営(総会開催準備・実施、理事数の削減案作成等)
- 2) 企業との懇談会開催に向けての企画実施等
- 3) 他団体との協賛事業に向けての準備
- 4) 20周年記念事業の企画・立案
- 5) AIDIA開催にむけての準備補助

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/soum.html>

■支部だより

□北海道支部

支部長 小林 謙

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/hokd.html>

□東北支部

支部長 若井正一 (日本大学)

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/toho.html>

□北陸支部

北陸支部長 小松暁一 (金沢美術工芸大学)

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/hokr.html>

□関東支部

支部長 岡田 悟 (共立女子短期大学)

関東支部の2008年度の活動を報告します。

- 1) 見学会「西川材を活かした地産地消住宅」・セミナー「百年持つ“木の家”をつくること」

講師：吉野勲氏 (一級建築士事務所創夢舎主宰)

日 時：平成20年11月24日(月、振替休日) 13時～17時
場 所：埼玉県飯能市

参加者：16名

内 容：講師の設計になる永田台団地の個人住宅3棟の外観、および、横手台団地の個人住宅の内部まで見学し、飯能産西川材の木の香り、暖かさを感じつつ、住まいとインテリアを見学。セミナーは明治時代の店蔵を復元修理した「絹甚」(市指定文化財)に会場を移して行い、森林(やま)と都市(まち)とを結ぶ住まいづくりを目指す活動が紹介された。

- 2) 現代インテリア研究会の発足

首都圏を含む支部である点を活かし、現代の先端的なインテリアを研究、分析するワーキングを発足させた。

- 3) 支部ニュース10号の発行予定(3月)

□東海支部

支部長 建部謙治 (愛知工業大学)

新役員体制でスタートして早1年が経過しようとしている。

例年、会員に喜んでいただけるような企画をと、講演会や見学会を年1～2回開催しているが、常連の方々の参加に止まり、なかなか新規の参加者が望めない状況である。そこで次年度は新役員になられたばかりの方々に企画をお願いし、新しい切り口で若い方々にインテリアをアピールし、また参加していただける見学会・講演会を実施したいと考えている。

一方、今年度はインテリア5団体と連携して2つの講演会(中部インテリアデザイン連絡会リレーセミナー)を開催した。1回目は、建築家 齋藤裕氏による「金色の塵 日本建築の美」の講演会を、2回目は日建設計の若林亮氏による「モード学園スパイラルタワーズ」の講演と見学会を実施した。いずれも250名から300名の参加者を得て大盛況であった。このように企画が良ければ多くの方に参加していただけるという手ごたえもあり、今後も引き続き関係団体と連携して、講演会等を企画立案する予定である。

インテリア学会本部におかれても新しい機軸を打ち出し日本におけるインテリア発展をこれまで以上に進めていただくことを期待する。

なお、東海支部では支部設立20周年を迎えるにあたって、記念事業を行いたいと考えている。支部10周年記念事業では海外研修旅行を実施したことから、20周年でも実施可能かどうか検討中である。実施の暁にはぜひ他支部からの参加もお願いしたい。

最後に、長年インテリア学会東海支部に功績があった元支部長の林寅正氏に12月の役員会で感謝状を贈呈し、先生の労をねぎらったことは記録にとどめたい。
<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/toka.html>

□関西支部

支部長 小宮容一（芦屋大学）

2008年の下期、11月と12月に2つのイベントを行いました。

11月8日に、秋の見学会を開催しました。行き先は、2年前の学会大阪大会の折に見学した、藤井厚二設計「聴竹居」と、アサヒビール「大山崎山荘美術館」です。「聴竹居」は2年前には内部の見学ができませんでしたが、今年管理者が代わって見学が可能になりました。竹中工務店の松隈章氏が係って、地元のボランティアの方々「聴竹居倶楽部」を立ちあげられ、保存に力を注いでおられます。丁度、文化財の修理などを手がける京都の安井工務店によって10月末に応急修理が終了し、若干の家具が新たに購入、設置されており、藤井厚二の設計思想を充分体験することができました。参加者は18名でした。

藤井厚二の室内環境計画の通気の工夫—夏に床下の通気を室内に取り入れる、窓開口の解放性—はインテリアデザインに連続的空間の配置と流れるような視線計画となって現れています。南側のガラス張りのテラスは、冬に太陽光を入れるに充分であり、横長の窓は、どこかコルビュジェの窓を思わせます。1928年（昭和3年）完成で、昭和の名建築・インテリアと云えます。

保存が望まれます。

見学会の後の夕刻、場所を高槻に移して、松隈氏も参加して懇親会を持ち、建築談義、インテリア談義となりました。



見学会集合写真（聴竹居にて）

年の瀬の迫った12月27日、大阪心斎橋の「博多華味鳥」で、鳥鍋の忘年会を持ちました。参加者13名。学会や見学会など、一年を振り返り、次年度へ向けて有意義な学会活動を行っていくことを確認しました。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/kans.html>

□中国四国支部

支部長 大森豊裕（近畿大学）

・事務局住所の訂正（ホームページ）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/chug.html>

□九州支部

支部長 車 政弘（九州産業大学）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/kyus.html>

■研究部会だより

□歴史部会

部会長 内藤 昌（愛知産業大学）

代表幹事 河田克博（名古屋工業大学）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/reks.html>

□計画・構法部会

部会長 栗山正也（KDアトリエ）

[インテリア環境評価研究会]の立ち上げとその活動

今世紀、そして更なる未来に向けて安定した地球社会を維持し続けるには、従来の発展型社会から持続可能型社会への転換が急務とされている。

そのような社会背景を受けて、生活環境に直接関わる建築界では建築物を環境性能で評価する新しい潮流が生まれ、わが国では住宅・建築評価の新しい指標として「総合環境性能評価システム＝「CASBEE」が開発され試行され始めている。また、国際的には英国の「BREEAM」米国の「LEED」カナダの「GBTool」など多くの国で同様の環境性能評価基準が開発され活用段階に入ってきている。

それらは概ね建築物を総体として評価するToolであり、前述の総合環境性能評価システム「CASBEE」においても、「室内環境」や「内装材」等の評価項目があるが、それは建物躯体に関わる限られた部分としての評価に過ぎない。“長持させる建築”の部位としての評価は、短時間で変化が求められることが多い「生活・活動の場」であるインテリア空間の評価方法としては適切とはいえない。

生活と密接に関わる「インテリア空間」は建築の環境評価とは別の対象として評価されることが必要であり、そこで消費されるエネルギー・資源、そして廃棄・排出される環境負荷要素は無視できない大きな存在である。それはわが国における二酸化炭素排出量の約30%を占めるとされる民生部門の主要な領域でもある。それをどう適切にコントロールし、環境負荷を減らすことができる

か、それはこの領域で仕事をする専門家がインテリア空間の使い手の生活者と共に考え解決を図らなければならない大きな課題だといえよう。

この課題は単に学会だけではなく広くこの領域に携わる専門家に共通する課題であり、今こそ関係者が結束して早急に課題解決に取り組む時であろう。そこで、昨年当部会長（栗山）の呼びかけで、インテリア関係6団体・インテリア学会 ・インテリアデザイナー協会・インテリアプランナー協会 ・インテリア産業協会・商環境設計家協会 ・商業施設技術者団体連合会の有志が集まり「インテリア環境評価研究会」を立ち上げて検討を進めてきた。

本年は、この研究会の成果を基に“インテリア環境評価”を具体化するための「インテリア環境評価推進協議会（仮称）」の発足に向けた活動を進める予定である。
<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/keik.html>

□人間工学会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

今年度は年度末の忙しい時期になってしまいましたが、3月に見学会を企画しております。見学先は、TOTO株式会社様のご厚意により普段は見学できないUD研究所（茅ヶ崎）です。皆様よくご存知の通り、TOTO株式会社様は古くから人間工学やユニバーサルデザインに取り組まれている企業です。人間工学やユニバーサルデザインに関心のある方だけでなく、トイレやお風呂、キッチン等の水回り空間に関心のある方はぜひご参加ください。日時ですが、3月25日(水)午後3時からを予定しております。

最後に、今年度は情報交換やディスカッション等の場を提供することができず、反省をしております。つきましては、当部会では部会活動を活性化したいと考えております。人間工学や環境工学等にご関心のある方はぜひご一報ください。

（メールアドレス：mitsuaki.shiraishi@it-chiba.ac.jp）
<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/ning.html>

□教育部会

部会長 河村容治（東横学園短期大学）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/kyoiku.html>

□住宅部会

部会長 直井英雄（東京理科大学）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/jutk.html>

□デザイン部会

部会長 佐渡山清（ゼロファーストデザイン）

・インテリアやデザインに関連したイベント情報の発信

（電子メール、郵送にて）

（お願い：アドレス登録がされていないと配信できませんので、配信希望の方は登録して下さい。

連絡先：nakasone@zerofirst.co.jp）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/desg.html>

□CAD部会

部会長 川島平七郎（元東横学園短期大学）

・幹事会の開催

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/cad.html>

■インテリア学大系・特別委員会報告

委員長 湯本長伯（九州大学大学院）

インテリア学大系発刊のために、構想・編集等の担当を担うWGは、任意組織として作られ、3年以上の活動を経てインテリア学大系・特別委員会（委員長：湯本長伯・九州大学大学院教授）として改組し、また特別委員会としての予算（5万円）も配分されることとなりました。

特別委員会としては、春の総会時にワークショップ、秋の大会時に関連シンポジウムを開催して、会員の皆様のご意見を伺いましたが、これを踏まえて心新たに準備と調整を進めたいと思っています。

現在のメンバーは、高橋鷹志、西出和彦、栗山正也、小原誠、直井英雄、湯本長伯、白石光昭、渡辺秀俊、村口峯子、谷口久美子、安武敦子、といったところですが、検討会を7～8人で開催出来るようにしたいので、興味関心のある方は、どうぞ湯本までご連絡下さい。

よろしくお祈りします。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/taikei.html>

■第2回理事会議事録

総務委員 松崎 元（千葉工業大学）

日 時：平成20年9月26日(金) 15:10～

会 場：九州大学大橋キャンパス

（産学連携センター・デザイン総合部門）

出席者：高橋会長、上野、大森、北浦、栗山、車、小宮、白石、建部、直井、西出、棒田、松本（吉）、湯本、若井 他

委任状：9名

記 録：松崎

大会時に開催される理事会であるため、まず大会長の湯本理事より大会運営について説明があり、大橋キャンパス紹介ビデオの後、白石理事・総務委員の進行で議事に移った。

1. 部会の見直しについて

学会規模に対して、部会数が多いため、各部会の活動実績、分野の構成、各種建築物への対応など、現状を鑑み、部会の再編、見直しを検討することとなった。なお、会員増強や会員のためになる部会は残すべき、予算のあり方についても検討すべき、支部も検討すべきとの意見がだされた。また、学会活性化の一つの手段として、当学会の作品賞の設置の意見もだされた。

2. 賛助会員との懇親会について

企業側は学会活動に出費しにくい状況になっているので、企業に役立つテーマ等を考慮し、年1回の頻度で年度末に講演会、懇談会（情報交換や交流）を催し、今後発展させていく。また、他団体と連携して官庁等の情報を得ていく必要があるとの意見も出された。

3. 20周年記念事業について

高橋会長より、①若い会員向けコンペティションの開催、②建築設計資料集成コンパクト版「インテリア」を出版（建築学会にも確認済み）の提案があり、以上の各案件について記念事業として進めていくことになった。

4. インテリア関連団体との連携について

共通して連携できるテーマを探ることが大切であるが、関連するテーマは多いと考えられるので、進めていくことになった。ただし、学会か団体か（学術的なデータかワークか等も含む）によって連携方法が異なるので注意が必要であるとの意見が出された。

5. 「インテリア学会の今後について」アンケートまとめ

本年度総会時にインテリア学会の今後について、参加した会員にアンケートを行ったので、その結果を報告した。

6. 次年度大会開催について

北陸支部の棒田支部長より、平成21年10月24日(土)～25日(日)に金沢で開催を予定しているとの説明があった。インテリアコーディネーター試験など、他の行事日程や、見学会の場所など、検討を重ねた上で最終的に会員に案内する予定である。

7. その他

- ・湯本理事より、7月23、24、25日、AIDIAワークショップ（九州産業大学）、シンポジウム（九州大学）を開催し、無事終了したとの報告がなされた。
- ・西出理事より、AIDIA会議（10月21日～23日中国河南省鄭州）での発表者に鈴木敏彦先生（首都大学東京、作品パネル3点）への依頼が承認された。
- ・直井理事より、AIDIA論文集の件で、今年は大会と連動せず、名称が「International Journal of Interior」となり、国内の論文に準じた審査で日本からは6編掲載されるとの報告がなされた。
- ・西出事務局長より、3年間不明者リストに上がっている者を会員名簿から削除することが承認された。
- ・小宮理事より、関西支部のホームページが立ち上げら

れたことが報告された。

(URL : www.jasis-kansai.jp)

以上

■第6回アジアインテリアデザイン学会 (AIDIA 日本大会2010) 第1回打合せ議 事録

総務委員 松崎 元（千葉工業大学）

日 時：2009年1月23日(金) 13時～15時

場 所：九州大学丸の内オフィス

出席者：栗山（前回担当理事）、加藤（国際）、湯本（広報）、松崎（事務局・総務代理）

記 録：松崎

資料1：第5回AIDIA大会（中国河南省鄭州）報告（加藤）

資料2：第6回AIDIA大会（日本）検討事項まとめ（湯本）

1. 第5回アジアインテリアデザイン学会報告（加藤）

- ・開催地は、中国河南省鄭州（内陸部、黄河流域、古代殷の時代の遺跡）、鄭州国際コンベンションセンターで、開催日は2008年10月21～23日、テーマは「IN SPACE」。
- ・日程は以下の通り。
 - 10月21日：登録、AIDIA理事会、セレモニー
 - 10月22日：講演会1（4名）日本より鈴木敏彦氏、合同写真撮影、昼食、講演会2（6名）賛助企業紹介、夕食会（約1,000名）州知事挨拶、表彰式
 - 10月23日：AIDIA理事会（引き継ぎ）、分科会、昼食会（賛助企業もち）、講演会3（5名）日本の迫慶一郎氏、会旗引き継ぎ（韓国→中国）、各国代表挨拶（加藤副会長）
- ・会期中、芸術センターで各国学生のパネルを展示。
- ・参加者は、イタリア、オーストラリア、台湾、中国、日本、韓国から計約1000名、日本からは、加藤、山内、鈴木 の3名が招待参加。
- ・指定ホテルは、ホリデーイン（中国人）、ソフィテル（招待者ほか）、ホテルから会場へはバスによる送迎。
- ・通訳：講演はそれぞれ母国語で行い、中国語にのみ翻訳
- ・論文集を配布、作品集は未完成。

〈AIDIA理事会決定事項〉

1. AIDIA事務局および主催国が韓国から中国へ。
2. 中国CIIDのZOU会長（女性）がAIDIA会長に選出。
3. 各国は50冊の論文集と引き換えに、年間1,000ドルをAIDIA事務局へ上納する。

4. 他に個人会員を設け、会費は年間50ドルとする。
5. 各国は会長以外に3名のAIDIA理事を設ける。日本は、加藤、直井、西出とした。
6. 2010年の第6回AIDIA大会は日本で開催する。
7. 主催国は参加各国より3名ずつを大会へ招待（旅費・滞在費）する。
8. 作品集は会議開催国で作成する。
9. その他：来年北京でIMI（国際インテリアデザイン会議）が開催される。以上

2. 第6回アジアインテリアデザイン学会2010年日本大会検討事項（加藤力、湯本長伯）

- ・日時・場所：開催は2010年秋、東京以外で日本の特色を出せる場所として、関西地方（京都、大阪、奈良など）を候補地として検討を進める（大阪樟蔭女子大学、大阪産業大学など）。その他の地域も可能性を探る（会議後に広島を中心とする案も検討されている）。
- ・準備組織：国際委員会を中心とした本部委員会および開催地の支部・地域の担当者からなる運営組織を立ち上げる。企業や行政団体との協力も重要である。（賛助会員懇談会への関連団体からの参加）
- ・第22回日本インテリア学会大会との連動：2010年はすでに広島が候補地として挙がっているが、関西の大学でもAIDIAとの共同開催について再度検討する。
- ・企画・見学会：京都御所、桂離宮、適塾など
- ・費用概算：招待者10名（各国会長、理事、講演者）×30万円＝300万円、作品集100万円、+予備100万円
合計500万円程度
- ・支援金の可能性：日本インテリア設計士協会200万円、インテリア産業協会200万円、その他

（国内大会とAIDIA大会を同時開催する場合の日程（案））

- 前日：JASIS理事会、AIDIA理事会+夕食会
- 1日目：日本インテリア学会大会発表（前半）、AIDIA大会講演会、合同シンポジウム、レセプション（後半）
- 2日目：AIDIA理事会（朝食時）、見学会、京都見学（2カ所）

以上、今後定期的に会合を開いて検討を進めるが、まずは高橋会長より、関西・中国等開催可能な支部の長宛にAIDIA日本大会の開催について依頼状を送付いただき、実行委員会の運営体制および協力体制を整える。

以上

■ 広報担当委員公募について

広報委員長 湯本長伯

新しい編集委員を公募しておりましたが、幸いにも新しい方々をお迎え出来ましたので、ご報告致します。

地域的な分布は、以下のようです（敬称略）。

東北 若井正一（日本大学工学部教授）

関西 片山勢津子（京都女子大学准教授）

中国 平田圭子（広島工業大学准教授）

委員就任を感謝し、今後とも宜しくお願い申し上げます。

- ・広報委員長：湯本長伯 [九州大学大学院・教授]

mailto:interior@design.kyushu-u.ac.jp

- ・会報編集委員長：渡辺秀俊 [文化女子大学・准教授]

- ・年報編集委員長：

平井康之 [九州大学大学院・准教授]

- ・ホームページ・メールニュース編集委員長：

湯本長伯 [九州大学大学院・教授]

<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/koho.html>

- ・総務委員会連絡委員：

白石光昭 [千葉工業大学・准教授]

【新コラム】

■ 連載『インテリアの行方』

インテリアの歩みを振り返って

片山勢津子（京都女子大学准教授）

新年を迎えて今後の抱負を語りたいところだが、100年に1度ともいわれる世界恐慌に見舞われた今、未来を云々するのはなかなか難しい。そこで、これまでの学会や業界の歩みを振り返り、インテリアの行方を探ることにしたい。

学会ができた20年前はバブル景気に沸いていた時代だった。インテリアの分野では、インテリアコーディネーターやインテリアプランナー制度が発足して活気づき、インテリア関連学科が雨後の筍のごとく全国の大学や短大、専門学校にできた。気付いてみれば、私もその御陰でインテリア担当教員として、現職に就いている。

一体、これほどまでインテリアに関心が集まったのは何故だろう。資格制度ができた背景としては、オイルショック後の国民の生活意識の変化が挙げられよう。省エネの必要性から指向が量から質へと移り、生活空間を

トータルに捉えるようになったため、住宅や家具産業もインテリアの分野に参入した。当時の人間工学や室内計画学の基礎的資料の整備は、こうした変化を支持するものとして役立った。そして、さらに学問的な発展を期待して日本インテリア学会ができた…と理解することができよう。

学会の設立は、このような前途洋々の船出であったが、やがてバブル経済が崩壊、さらに阪神大震災、ハウシック問題、そして今回の不況と様々な問題が起こった。しかし、振り返れば、不況期の価値観の変革がインテリア志向に繋がり、そして好況時に目に見える形で新たな発達を生むという一定の流れのあることに気づく。

1950年代に、第1次ともいえるインテリアブームがあった。当時、衆目を集めた高島屋インテリア展「シャムブル・シャルマント展」は1953年に始まっている。この自社デザイナーの発表会が連日大盛況だったという事実から、如何に一般の人々がモダンデザインに憧れていたかが窺えよう。そしてこうした期待に応えるべく、1958年には、インテリアの資格の先駆けである室内装備設計士（現 インテリア設計士）資格制度、そして日本室内設計家協会（現 日本インテリアデザイナー協会）が発足した。つまり、この時期は大戦後の混乱が治まり、新しい生活スタイルを築こうと、インテリア業界が質の向上を目指していたそんな時代だったのである。

では、今回の大不況は価値観をどう変え、インテリアに何が求められるのだろうか。そう考えてまず浮かぶの

は、近年盛んに言及されるサステナブルな社会であろう。そして次に思いつくのは、アメリカ発の不況を誰もが訝しく思い、翻って日本の独自性が見直されるのでは、という考えである。尤も、和のデザインは既に数年前から世界的に注目されている。だから、表層的なデザインというのではなく、日本の生活様式や技術、習慣や感性がもたらす内容について注目されるのではないだろうか。

これまで色々な欧米発の概念を日本人は導入してきたが、今回の不況を契機に、私達が伝統的習慣的に行ってきたことを改めて見つめ直して、そこからデザインや研究が始められないかということである。

ただ、気がかりなことがある。それは学会も協会も高齢化が進み、些か活気に欠ける点である。「インテリア」というと、若い人は誰もが興味を示すのにである。新たなインテリアブームを巻き起こし質の向上を図るためには、是非若い感性を取り込みたいと思う。それからもう一つ、これまでのインテリアの歩みをみると、学会、協会、業界、そして個人が、関連してはいるもののバラバラに行動していることである。大きな分野だから細分化するというのは納得できるが、皆がインテリアの質の向上を詠いながら個別に行動していたのでは、大きなうねりを作れないのではないだろうか。来る第3次インテリアブームでは、是非とも若い力とインテリアの情報や認識を共有して行動できるようなシステムをと願う。

■ 編集後記

平成20年度の大会号—2として、会長、支部長、部長、委員長、そして大会関係の皆さんを中心に原稿を寄せていただきました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた方に御礼申し上げます。

また、今年度は大会との関係で、会報の発行が遅れましたことを深くお詫びいたします。（なお、これまでの会報をご覧になりたい方や他の情報を知りたい方はホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。）

なお、ご意見等をお持ちの会員の方からも原稿をお待ちしておりますので、ぜひお寄せください。40号から連載を始めました「インテリアの行方」に関連して、会員の方が考えていることをお送りいただいても結構です。会報を会員相互の情報交換の場として盛り上げていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

片山（京都女子大学）が、44号から会報編集をお手伝

いすることになりました。関西支部から発信しつつ、会報を会員相互の情報交換の場として盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（片山記）

■ 日本インテリア学会会報第44号（2009.2.25発行）

編集者：片山勢津子、湯本長伯（佐藤恭子）

発行者：高橋鷹志（日本インテリア学会会長）

広報委員会：湯本長伯、渡辺秀俊、平井康之、
若井正一、片山勢津子、平田圭子、
白石光昭

■ 事務局

日本インテリア学会

事務局長 西出 和彦

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

FAX：03-5841-8515